



ゆきづまる人工島事業 凍結し市民参加で見直せ



宮本市議が追及

10月12日市議会決算特で質疑に立つ宮本市議

10月12日、福岡市議会決算特別委員会の総会質疑の初日、日本共産党の宮本秀国市議が人工島事業の問題などで高島市長を追及しました。

みなとづくりエリア

売る自信ない市長 売り込みにも行けず…

人工島のみなどづくりエリアの土地がほとんど売れず、事業は破綻状態です。

宮本市議は、同エリアについて港湾業界にトップセールス（市のトップである市長自らが売り込み動くこと）をしたのかと聞くと、一度もしていないことが明らかに。需要もなく、事業として破綻しており「自信がないからではないか」と質問すると市長は「そういうわけではない」と言い訳しました。

まちづくりエリア

住宅売れ残り、計画ゆきづまる

まちづくりエリアでは、積水ハウスなどが「住宅在庫があるから」といって、9月末決済ができず、土地購入を延期したことがわかりました。売れ残ったのは118戸も。

「住宅計画が破綻しているのではないかと宮本市議が追及すると、市は「大変厳しい状況」と言わざるを得ませんでした。

市長は人工島の活用を話し合うフォーラムをつくりましたが、「大型コンベンションをつくれ」などの身勝手な要望が続出。無駄なハコモノづくりについて、すでに地元財界と市長との間で話ができているのではないかと宮本市議が尋ねると、市長は「そんな話をした覚えはない」と否定しました。

いま事業をやめれば…

約110億円の損失ですみます。もし埋立をつづければ512億円かかり、しかも、売れなければ812億円の大穴が空き、税金で埋めるハメに…



与党議員からも凍結を求める声まで出ていると紹介し、事業の中止を求めましたが、市長は「港湾機能を強化する」と推進にしがみつきました。

保育園用地の有償化やめよ

この他、今無償で貸している認可保育園の市有地を有償貸与にする計画をやめるよう求めました。また、スポーツ基本法の基本理念を示し、身近なスポーツ施設を増やす予算を組むよう要求しました。

身近なスポーツ施設ふやせ